

1910年代～1920年代にかけての アメリカ進歩主義教育における 学校図書館

今井 福司

東京大学大学院教育学研究科

2008年11月16日

1 はじめに

- 本研究の問題意識・背景
- 調査対象ならびに手法
- 問題設定

2 進歩主義教育の概要

- 進歩主義教育の考え方

3 進歩主義教育の実践事例

- プロジェクト・メソッドによる実践
- 急進的な児童中心主義カリキュラムの実践
- 「作業单元」の開発を通じた実践

4 おわりに

- 本研究で解決すべき問題について
- 結論
- 課題

1 はじめに

- 本研究の問題意識・背景
- 調査対象ならびに手法
- 問題設定

2 進歩主義教育の概要

- 進歩主義教育の考え方

3 進歩主義教育の実践事例

- プロジェクト・メソッドによる実践
- 急進的な児童中心主義カリキュラムの実践
- 「作業単元」の開発を通じた実践

4 おわりに

- 本研究で解決すべき問題について
- 結論
- 課題

問題意識・背景（1）

- 占領期の学校教育や学校図書館はアメリカにおける改革がモデルとされた。戦後の日本の学校図書館の成立を探る上では、日本に持ち込まれたアメリカのモデルを検討することは欠かせない。
- こうしたモデルの1つとして、教育学者デューイ（John Dewey）の『学校と社会』（1899）がある。占領期の学校教育改革の理論的基礎を提供したこともあり、デューイは学校図書館と学校教育の関連を検討する上でよく参照される。
- しかし、占領期の学校教育のモデルとなる事例は、デューイ以後の蓄積に基づいた事例である。

問題意識・背景（2）

- デューイ以後、アメリカでは進歩主義教育と呼ばれる新教育運動を発端として、様々なカリキュラム改革が試みられた。
 - 占領期の社会科教育のモデルは、1930年代のカリフォルニア州やヴァージニア州の改革だった。
- 学校教育と学校図書館の関連を探るためには、デューイ以後の教育改革を検討することが必要である。発表者は既に1930年代のヴァージニア州の教育改革で学校図書館が必要とされていたことを確認している。
- 1930年代以前の教育改革においても、学校図書館が必要とされていたかどうかを検討する必要がある。

問題意識・背景（3）

- 先行研究として、Drury と Masters の研究¹では、学校図書館のリーダーが進歩主義教育をどう見ていたかが検討され、Mary E. Hall, Lucile F. Fargo, Hannah Logasa などがデューイのアイデアを援用していたことが指摘されている。
- しかし学校図書館側からの検討に留まり、カリキュラム改革が行われた学校の教育で学校図書館がどのように必要とされ使われたかについては、研究されていない。

¹Judy Drury, Anne Masters. School Libraries and the Progressive Movement: A Study of the Role of Librarian in Implementing Progressive Education (1900-1957). Kathy Howard Latrobe, The Emerging School Library Media Center, Libraries Unlimited, 1998, p. 17-38.

調査対象並びに手法

本研究は、デューイの理論が簡易化・一般化され、本格的に広まった時代とされる1910年代から1920年代までを対象とし、佐藤学の研究²に従い、当時の代表的な事例とされる3事例の実践報告を取り上げ検討した。

- 1 プロジェクト・メソッドによるコリングス (Ellsworth Collings) の実践
- 2 急進的な児童中心主義カリキュラムとプラット (Caroline Pratt) の実践
- 3 児童の興味を中心にした「作業单元」の開発とリンカーンスクールの実践

²佐藤学. 米国カリキュラム改造史研究. 東京大学出版会, 1990, 400p.

問題設定

ジョン・デューイ以後のアメリカの進歩主義教育での実践を、以下の3つの観点から検討し、学校図書館の活動・成果を確認していく。

- 1 学校図書館はなぜ必要とされたのか？(背景)
- 2 学校図書館はどう定義され、利用されていたのか？(定義及び利用)
- 3 学校図書館を使ったことでどのような成果が得られたのか？(成果)³

³コリングスの実践については、改竄の疑いがあるため、成果は除く

1 はじめに

- 本研究の問題意識・背景
- 調査対象ならびに手法
- 問題設定

2 進歩主義教育の概要

- 進歩主義教育の考え方

3 進歩主義教育の実践事例

- プロジェクト・メソッドによる実践
- 急進的な児童中心主義カリキュラムの実践
- 「作業单元」の開発を通じた実践

4 おわりに

- 本研究で解決すべき問題について
- 結論
- 課題

児童中心主義

進歩主義教育の流れとしては4つの流れがあるが⁴1910年代から1920年代は、「児童中心主義」を理論的基盤とし、私立学校での実践が多く展開された。

「児童中心主義」とは、教育過程における子どもの絶対的自由を重んじ、教師や教科による子どもへの不介入を主張する⁵立場である。

⁴知能テスト運動、児童中心主義、社会的効率主義運動、社会改造主義の4つである。

⁵佐藤修司. キャンデルにおける「教育の自由」の性格—1930年代の進歩主義教育批判を中心に—. 東京大学教育行政学研究室紀要, No. 11, 1991, p. 2

1 はじめに

- 本研究の問題意識・背景
- 調査対象ならびに手法
- 問題設定

2 進歩主義教育の概要

- 進歩主義教育の考え方

3 進歩主義教育の実践事例

- プロジェクト・メソッドによる実践
- 急進的な児童中心主義カリキュラムの実践
- 「作業単元」の開発を通じた実践

4 おわりに

- 本研究で解決すべき問題について
- 結論
- 課題

プロジェクト・メソッドの理論

ジョン・デューイの弟子であったキルパトリック (William H. Killpatrik) は、1918年に、デューイの理論を平易かつ具体化した「プロジェクトメソッド」という論文を発表した。

プロジェクトメソッドとは、あるテーマや問題の元に、学習課題・作業課題の設定、計画の立案、活動の展開を学習者自身の自主性・自発性に基づいて行われる教育方法のことを指す。

コリングスの実践概要（1）

プロジェクトメソッドは、キルパトリックの院生だったコリングスにより、ミズーリ州マクドナルド群の小規模な公立小学校⁶で実施された。学校のカリキュラムは、教科による区別はなく、活動を中心とした次の4領域で構成された。

- 1 遊びプロジェクト（Play Project）
- 2 遠足プロジェクト（Excursion Project）
- 3 手仕事プロジェクト（Hand Project）
- 4 物語プロジェクト（Story Project）

⁶全校生徒41人の1教室学校で、コリングスが校長を務めていた。

コリングスの実践概要（2）

例えば、「手仕事プロジェクト」の報告では母親がアイロン台を持っていなかったため、児童が手作りのアイロン台を作るため調査し製作するという活動が行われた。

- 何を学ぶかという教材の決定が、児童の活動を中心として行われた。

学校図書館の定義

コリングスの実践では、独立した施設として学校図書館はなく、教室の書棚が library だった。

しかし、library に備える資料については、児童の目的に合わせて種類に富んだ本や紀要で構成され、教科書も参考文献の1つとして置かれるなど、設備としては十分ではないものの、図書館は種類に富んだ資料を備える場所として定義されていた。

学校図書館の利用

- 図書館に備えてある本、雑誌、写真のリストでは、473点の資料が挙がっており、授業で実際に利用されていた。
- 例えば、「遠足プロジェクト」の“**What Are the Causes of Typhoid in Mr. Smith's Home?**”では、腸チフスの発生原因に関する調査の中で、図書館の資料のリストにある資料が用いられていた。

コリングスの実践において、学校図書館は授業での調査のために資料を調べる所として利用されていた。

CaCS の実践概要（1）

ニューヨーク州でキャロリンプラットが開いた「シティ・アンド・カントリースクール」（以下，CaCS）の報告書“Experimental Practice in the City and Country School”によれば，カリキュラムは，以下の4種類で構成され，児童の活動を中心に展開させていた。

- 1 遊びの経験（町作り，道具を使う遊びなど）
- 2 実践的経験（作業，裁縫，料理など）
- 3 技能訓練（読書，言語，綴字など）
- 4 情報の組織化（討論，散策，地理など）

CaCSの実践概要（2）

実践の特徴は、年間を通じて「町作り」の作業が設定されていることである。

- ニューヨーク市の市街地の模型作成を通じて、各人が担当する場所への訪問調査やその場所に応じた学習を行っていた。
- 教材となる場所の選択は児童の興味関心に応じて行われた。

このように、CaCSも教材の決定が、児童の活動を中心として行われた。

学校図書館の定義

実践報告そのものには“school library”という言葉はないが，“library”について述べている箇所がある。

- 7歳の2月の報告で，“library”に行く前に教室にある本で調査すべきであると述べられている。
- 報告書の巻末には，科学室や音楽室，体育館と言った設備とともに，libraryがあるという説明がある。

報告書では，これ以上の詳しい説明はないが，プラットの回顧録によれば図書館員が置かれ，独自の件名目録が備えられていたという。

学校図書館の利用

プラットの回顧録⁷によれば、7歳の12月から学校図書館を利用して読書をする時間というのが設けられ、図書館員が本の選択を援助していた。

同時に図書館には既存の目録に加えて、独自の件名目録が整備され、生徒が調べやすいように工夫が凝らされていたという (p. 144–145)。

⁷Caroline Pratt. *I Learn from Children: an Adventure in Progressive Education*. Simon and Schuster, 1948, 204p.

学校図書館の成果

成績がどう上がったかといった数字での成果は示されていないものの、回顧録では“図書による研究が児童を図書館の外へと”導く (p. 145) という記述が見られ、その後の活動の起点となったことが報告されている。

このように CaCS において、学校図書館は図書の研究を行い、様々な活動を行う際の起点として利用されていた。

リンカーンスクールの実践概要（1）

- コロンビア大学の実験学校として 1917 年に設立された。
- 児童の活動だけでなく、教科の枠組みもカリキュラムに取り入れた。
- 1930 年代以降公立学校に広く普及した「興味を中心」(center of interests) を定めて、教材と活動の単位とする「作業単位」を形成、総合学習を展開していく仕組みを作り出した。

リンカーンスクールの実践概要（2）

1927年“Curriculum Making in an Elementary School”という報告書⁸にまとめられ、「作業単位」の具体的な実践例が示されており、China という3年生の単位では問題解決学習がふんだんに盛り込まれていた。

⁸The Staff of the Elementary Division of the Lincoln School of Teachers College Columbia University. *Curriculum Making in an Elementary School*. Ginn and Company, 1927, 359p.

学校図書館の定義

報告書では、冒頭で1 ページが割かれ (p. 22), 独立した施設として学校の中央に配置され, 開架式の書架を備えアトバイスをする司書がいることが明記されている。

その上で, 学校図書館の読書とは以下の2つに分かれると定義している。(p. 278–279)

- 1 楽しみのための読書 (自分の好みに応じた読書)
- 2 情報を得るための読書 (レファレンス資料の利用, 参考文献リストの作成など)

学校図書館の利用

学校図書館の利用については以下のような記述が見られる。

3年生のクラスで「この地域の堤防の高さはどれくらいなのか？」と、男子が質問したが、誰も答えられなかった。「なぜ図書館に行って探そうとしてこないんだ？」と教師が促し、男子は学校図書館で情報を見つけ出し、クラスで報告した (p. 22)。

“China”の単位では、学校図書館から本を借りて、問題を解決する活動が行われたことが報告されている (p. 136)。

学校図書館の成果

p. 281 のグラフでは、子どもの読解力テスト⁹の Reading の成績が図書館での活動が始まる第2学年から上昇し、第4学年からは全米平均を上回っていることが示された。

- 報告書によれば、この結果について学校図書館と教室での読みを行う機会があることで、子どもの読解力が伸びるのは当然であるとしている (p. 279)。

以上のように、リンカーンスクールの実践において、学校図書館は活動の起点として機能し、調査だけでなく読書活動を行う場所としても機能していた。

⁹Standard Achievement Test: 全米学力テスト

1 はじめに

- 本研究の問題意識・背景
- 調査対象ならびに手法
- 問題設定

2 進歩主義教育の概要

- 進歩主義教育の考え方

3 進歩主義教育の実践事例

- プロジェクト・メソッドによる実践
- 急進的な児童中心主義カリキュラムの実践
- 「作業単元」の開発を通じた実践

4 おわりに

- 本研究で解決すべき問題について
- 結論
- 課題

結果

1910年代から1920年代の進歩主義教育における学校図書館を検討した結果、以下の4点が明らかになった。

- 1 3事例ともに、「児童中心主義」の立場に基づき児童の活動から授業が展開されていた。
- 2 事例ごとに学校図書館の施設の規模は異なるが、何らかの形で学校図書館が設置されていた。
- 3 どの事例でも、学校図書館は授業で必要になった情報を見つけ出すための機能を果たすことが求められていた。
- 4 事例によっては、読書の要求を満たす機能を果たしている事例もあり、リンカーンスクールでは特に両者を分けて明記していた。

問題（1）

学校図書館はなぜ必要とされたのか？

- 今回の3事例共に、当時の進歩主義教育では“児童中心主義”によって、教材の選択が児童の活動に合わせて行われていた。
- 様々な興味関心に対応するため、教科書以外の資料の収集や備えておく場所が必要とされる。

こうした実践上の必要から、学校図書館が求められていたと考えられる。

問題（2）

学校図書館はどう定義され、利用されていたのか？

- 児童の興味関心に応じた学習のために必要な資料を調べる場所として
 - 件名目録の利用や文献目録の作成
- 読書を行う場として
 - レビューカードの作成

図書館員と教師の働きかけを通じて、現在の読書センター、学習・情報センターとも繋がるような利用が行われていた。

問題（3）

学校図書館を使ったことでどのような成果が得られたのか？

- リンカーンスクールの実践では、全米学力テストの成績と学校図書館の活動を結びつけて、学校図書館の成果を述べられている。
- CaCS では、こうした成績と結びつけた記述は見られないが、プラットの回顧録では、様々な活動の起点として学校図書館が機能していたことが述べられている。

学校図書館を使うことで、学習活動が活発になった。

結論

本研究で取り上げた、1910年代から1920年代の進歩主義教育における代表的な実践では、学校教育の実践上の必要から、学校図書館が必要とされ実践の中で活用されていたことが分かった。

Drury と Masters の先行研究を考慮に入れると、当時のアメリカでは（発展途上であったにしても）学校教育の中で学校図書館が一定の位置づけを持っていたのではないかと¹⁰と考える。

¹⁰ただし、日本に目を向けた場合、占領期にアメリカがモデルとされ、導入される中でアメリカとは違った形で導入が行われたのではないかと考える。

今後の課題

本研究では、以下の3点について明らかにすることができなかった。今後の課題としたい。

- 1 進歩主義教育の理論面から学校図書館がどう位置づけられていたか？
- 2 進歩主義教育の事例に対して、学校図書館の理論家や理念はどう影響していたか？
- 3 進歩主義教育に関わらなかった学校では、学校図書館はどう位置づけられていたか？

発表は以上です。

ご静聴いただきまして、ありがとうございました。